

米中英佐核戰回避

五大保有国初の共同声明

【（シン）トン＝金杉寅雄、】ヨーローク＝杉謙貴浩】米国、中国、ロシア、英國、「フランスの核保有五大国は日本、「核戦争に勝者はなく、決してこゝではならない」と明記し核戦争防止をいたり異例の共同声明を発表した。核兵器禁止条約が今月二十二日で発効一年となる中、米中日などが核軍縮に逆行しているとの批判が強まっている」と意識したとみられる。

「核戦争に勝者はなく
」は、一九八五年に当時のレーガン米大統領とソ連のゴルバチョフ共産党書記長の共同声明に盛り込まれ、後の核軍縮交渉につながった。昨年のバイデン・ブッシュ両大統領の米ロ蔵脳会談でも確認。五大国の共同声明では初とみられ

予定だったが四度目の延期となつた核拡散防止条約（NPT）再検討会議に合わせて作成された。非核保有国からは「核保有五ヶ国が核軍拡競争を長期に停止し軍縮交渉を行うと約束したNPTの義務を果たしていない」との批判が出ている。

核保有五大国の
共同声明ポイント

- ④ 核保有国間の戦争回避と戦略的リスクの軽減が最重要の責務
 - ⑤ 核戦争に勝者はおらず、決して戦ってはならない
 - ⑥ 核兵器は防衛、侵略の抑止、戦争防止を目的とすべきだ。核拡散は阻止せねばならない
 - ⑦ 核拡散防止条約（NPT）で課された核軍縮交渉義務を守る
 - ⑧ 5力国の核兵器はいかなる国も標的にしていない
 - ⑨ 軍事衝突や軍拡競争を防ぐために2国間、多国間の外交的取り組みを追求する

保有国間の戦争回避と戦略的リスク軽減を「最大の責務」と強調した。NPTの義務を順守するとする一方、「核なき世界」の最終目標につながる安全環境構築の必要性を主張。「軍事衝突や軍拡競争を避けるための一国間や多国間の交渉を進めていく」とした。

米シンクタンク、軍備管理協会のダリル・キンボール会長は取材に対し、共同声明に一定の評価を示した。

上でも「核戦争のリスクを大幅に減らし、核兵器を削減する具体的な行動に関する共同声明を歓迎しつつ「将来の取り組みの具体化を期待している」と促した。

バイデン米政権は策定中の核政策の指針「核体制の見直し（N.P.R.）」で核兵器の役割縮小を検討。たゞ台湾やウクライナ情勢で米中や米ロの緊張が強まり、

名目の核弾頭数で米中日の軍拡の動向
米中日は極超音速兵器の開発や核兵器の近代化を進め、中国は核弾頭を増強してじゆく指摘されてくる。核兵器禁止条約の採択に貢献し、一〇一七年にノーベル平和賞を受賞した非政府組織(NGO)、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のフィン事務局長は「彼らは『すてき

